エレナ・レーリヒの手紙

1930年2月24日

本当に、小さな意識だけが、グルの権威に悩まされます。なぜなら、グルの権威とは、ヒエラルキーの権威の他に何があるのでしょうか？ ヒエラルキーの権威は、すべての下位のものの願望を支配することを意味しません。ヒエラルキーとグルの権威は、専制政治ではありません。この権威は最高の知識です。次のように言われています。「ヒエラルキーは宇宙の進歩のためにその力を使う。我々、人類の兄は、宇宙の磁石と一体となって働くこの力を持っている」。ヒエラルキーとグルは、激しい嵐の中で、破壊的な波やすべての岩を通り抜けて、彼らに託されたボートを導いている経験豊かなパイロットであり、そのボートには、「貴重な」貨物である私たち全員が自分の居場所を持っています。ですから、私たちはこのことを忘れないようにしましょう、救いのあるリーダーシップで伸ばされている手から離れないようにしましょう。権力と支配は2つの異なるものです。支配は、恐ろしく、すべてを排除するエゴイズムによって引き起こされるため、意識の最も低い形態です。一方、最高の知識によって祝福され、ハートによって緊張される権力は、最高の犠牲です。「犠牲」についての書を思い出してみましょう。ハートは常にリーダーの象徴とされていました。

　「導く手」への献身における喜びと愛の力を、心で感じてみてください。私は霊とハートの知識によって、これ以上の友と守護者はいないと断言します。

　もしそのようなものがあるとすれば、私たちのすべての供物が、この天による分配の有益な力と大変な貴重さに比べて、いかに小さいものであるかを理解すべきです。広くなった意識はそれを理解するでしょう。私たち自身が可能性を捨てさえしなければ、誰も卑しめられることなく、すべての人が尊重され、最高の達成への道がすべての人に開かれているのです。困難な山登りでは、唯一の可能性が先に進むことであり、すべての躊躇が災害を脅かす瞬間があります。緩んだ石は、長く遅れる者を支えられません。この瞬間、私たちは登らなければなりません。唯一開かれている道は、疑うことなく、後悔することなく、小さな供物の結び目を数え直すことなく、前に進む道です。このような考えは、足に余分な重量を与え、危険な上昇を複雑にします。私たちに必要なのは、「導きの手」にある愛と信頼の翼、「大いなる奉仕」にある喜びの翼です。教えの言葉を生活に適用するたびに、私たちの負担は大きく軽減されます。

私は心からあなたにお願いします。すべての自惚れ、あなたの捧げ物におけるすべての排他的な思考、疑いと疑いのすべての思考を破棄してください。時はあまりにも不吉であり、責任の重いものです。そして、闘争の期間はそんなに長いのでしょうか？

ほとんど半分はすでに終わっていて、本当に誰も何も失っていません。未来はとても美しく、とても広大です。進化の偉大な共同作業者の名前の中に、あなたの名前を書き留めさせてください。国々の文化のための協力よりもっと高く、もっと美しいものがあるでしょうか？

『無限』のページより。

「宇宙の大いなる統一は、強力な法則のように支配している。この法則を受け入れた者だけが、宇宙の協力に真に参加することができる。すべてのものの本質の統一は、人類を創造に向かわせる。意識が宇宙の宝庫から引き出すとき、宇宙の磁石がその影響を及ぼす。顕在化した宝庫には、統一性で飽和したエネルギーの肯定が含まれている。したがって、それぞれの霊の種は同様の一体感を感じなければならない。それぞれの霊の種は、宇宙の統一体に属しており、その中にはすべての宇宙の創造物が含まれている。人間は、孤立の道を採用することによって、この真実を奪う。統一の法則は、そのすべての種類において不変です。この法則によってのみ、建設することが可能である。なぜなら、引力が創造するとき、行動の力の中には統一があるからである。断言（肯定）されたBe-ness（有性）はすべて統一に基づいている。管理する法則は非常に強力で、この原理によって宇宙の建設が支えられている。この法則はすべての現れにおいて、この法則の粒子を集め、一緒に属しているすべてのものを統一する。この偉大な法則は、宇宙の王冠である」。

「生命の永遠の創造の中で、統一の法則が作用する。統一を命ずる命令、指定を命ずる命令、一方を他方に置き換えることを命ずる命令、戴冠を命ずる命令、不死を命ずる命令、各原子に生命を命ずる命令、新しいエネルギーの接近を命ずる命令、新しい時代を命ずる命令。宇宙の創造性は、このように生命の磁石によって表現されている。どうすれば宇宙の創造物をバラバラにすることができるのだろうか？ どのようにして、一緒になっている部分を分離させることができるのだろうか？どのようにして、本当の意味で、一方から他方に向かって発するものを切り離すことができるのであろうか？ 飽和状態の宇宙は、燃えるような統一に向かって突き進んでいる。宇宙の心だけが、人類に統一のイメージを与えることができる。この心は、最も燃えるハートの最高のイメージを人類に与える。この心は神聖さを集める。したがって、宇宙では、この法則は生命によって作られる。すべての宇宙の顕現が二重の起源から生じているとしたら、その終わりはどこにあるのだろうか？ 霊が最高の球体と接触するとき、宇宙の創造は無限の統一の法則で明らかにされる」。

「精神は、死についての考えに怯えている。しかし、意識が生命の本質に浸透したとき、統一の概念が肯定される。思考の連鎖、行動の連鎖、結果の連鎖、努力の連鎖、人生の連鎖など、すべての連鎖の連続性を指摘することが可能になる。一つの連鎖が他の連鎖を運命づける。人生の磁石の創造性は、これらの連鎖から成り立っている。そして霊は、死や消滅ではなく、連鎖を断ち切るという考えそのものに怯えなければならない。もし、宇宙に存在する、この壊れた鎖の記録を調べることができたら、霊は本当に恐ろしくなるだろう。大きな変化が確認されたとき、進化の統一性を受け入れる者だけが成功することができる」。

「導く手」と私たちをつなぐ鎖を断ち切らないようにしましょう。他にどうやって近づくことができるでしょうか？

同じ本からさらに抜き出してみましょう。

「宇宙の日付は、地中の火と超俗界の火の主張（断言）によって決まる。この相関関係は、人間の行動領域とつながっている。その日付が近づいてきて行動を起こすとき、宇宙の摂動とともに人間の意識がどのように変化していくかを常に観察することができる。もちろん、法則の不変性はすべての領域を統合し、すべての宇宙の力の交わりは、合理的な行動の主張（断言）となる。こうして、日付はすべての出来事によって埋められ、1つの領域だけに限定されるものではない」。

「今、まさに、すべての領域の火が非常に緊張しており、宇宙の決定が出来事を変えている。磁気の流れが地下の火を集中的に引き寄せる」。

「電気の伝導体がさまざまな条件に左右されるように、人間のオーラも宇宙からのメッセージを受け入れるように形成されている。人間の球体（the spheres of men）がある種のショックを必要とするとき、宇宙のメッセージはそれに合わせて送られてくる。確立されたオーラに浸透することができる要素だけが、それらの球体に加わる。球体が強い衝撃を必要とするとき、その球体は宇宙の流れて来るメッセージを受け入れることができない。そのため、惑星を取り囲む闇は、爆発の現れが伴わないと主張（断言）を受け入れません。これらの浄化の力は、人類を啓発する。宇宙の火は、確定した日付を引き付ける」。

　「宇宙の浄化の火は、この惑星のすべての地域に浸透している。火の粉は、カルマの作用のすべてのチャンネルに広がっている。火山のように、断言された火が閃く。カルマの力は、次から次へと人に力を移し、動かす。宇宙の流れは浄化の火に向かって押し寄せ、それゆえに彗星は無限の中を急いでいる。流れの緊張は非常に顕著であり、その作用は惑星の火に対応している。アグニヨギのセンター（中枢、チャクラ）は、すべての宇宙の流れを記録する」。

　険悪な時が近づいていることについて、どれほど多くの警告やサインが送られていることでしょう。しかし、無知が大きいです。北部の科学者が火山の活動を調査した結果、現在の火山帯は異常な緊張状態にあり、いわゆる死火山はすべて再び火のような息を吹き返していることがわかった、という記事を科学雑誌で読んだことがあります。予想外の噴火が新しい場所で見られます。最も危険な変動は海の底にあります。その科学者は、巨大な、地球規模の大変動が、ごく近い将来に起こる可能性を認めて、推論を締めくくっています。

　それを説明しているのが、『無限』の次の段落です。

「人類が存在の意味を理解すれば、宇宙の創造性に加わることができる。永遠に続く宇宙の変動に気づかずに、どうして前進することができるだろうか？人生がもたらす境界線を超えた努力をしてこそ、宇宙の創造性を感じることができるのである。愚かさの壁が道を塞ぎ、満足感の霧も道を塞いでいる。真の宇宙の創造性の領域に入ることが可能になったとき、宇宙の意識がやってくるのである。

　人間の無知について語る者は正しい。私たちが脅威の時に近づくとき、そのような力強い一歩のためにあらゆる力を発揮する必要がある。マイトレーヤ（弥勒菩薩）の時代はすでに予言され、兆候はすでに燃える種のように散らばっている。したがって、宇宙の磁石に従う人にとっては、脅威の時代は光に満ちたものになるだろう。そして、新しい時代の意義のために奮闘する人々にとっても、この脅威の時代は未来の光を担うことになるだろう」。

　でも人々はいまだに、この地球上の人生がいかに不安であるか、そして差し迫った危険の原因をどこで、何に探さなければならないかを理解しようとはしないのです。